



PRESS RELEASE

令和6年12月20日
取手市政策推進部文化芸術課

取手アートプロジェクト 25周年記念公演「象とまつ毛」

演劇・アートマネジメント等異分野専門家ほか市民による共同制作

今年度25周年を迎えた取手アートプロジェクトが、芸術家をはじめ、さまざまな属性を持つ者たちと一緒に共同で制作した演劇公演をたいけん美じゅつ場VIVAで来年3月に行います。併せて同時期に25周年アーカイブ展示、記念トークも開催します。

取手アートプロジェクト 25周年記念公演「象とまつ毛」開催概要

◇日程 令和7年3月20日(木祝)・21日(金)・22日(土)、23日(日)

各日のタイムスケジュールは、別添の企画書2ページをご参照ください。

◇会場 たいけん美じゅつ場VIVA (取手市中央町2-5 アトレ取手4階)

◇クリエイション(創作)と出演者

さまざまな属性の多様なメンバーとなっております。

別添企画書2ページをご参照ください。

◇チケット販売及び情報公開予定日

令和6年12月24日(金) 14時～

販売の詳細は別添企画書3ページをご参照ください。

取手アートプロジェクト(以下「TAP」)は、令和6年度に25周年を迎えました。平成11年(1999年)より継続してきたTAPの特徴は市民・取手市・東京芸術大学という三者共同で事業に取り組んできたことにあります。常に過渡期にあったTAPはいまや地域型アートプロジェクトの老舗であり、全国的に稀有な事例として着目されています。その過程にはアーティストと関わる市民との対等な対話が常にありました。

今回は、平成27年(2015年)より、TAPの将来を考えると「話し相手」として招聘を続けてきた演出家の羊屋白玉氏とともに今回の公演制作のために集まった演劇ユニット、俳優の他、地域社会におけるアートマネジメント研究者・実践者や、TAPで活動してきた行政職員・市民らが出演者ともなる共同制作型演劇です。取手を起点としながら、同時代の地域における芸術、個人の生活と文化のつながり、郊外での生き方、表現して生きることなど、全ての人につながる普遍的なことを探る公演となります。

※詳細は別添の企画書をご覧ください。なお稽古・制作の様子の写真ご提供可能です

問い合わせ先	取手市政策推進部文化芸術課文化振興係 担当者：秋田・落合 電話：0297-74-2141 (内線1292) E-mail：art@city.toride.ibaraki.jp
--------	--

取手アートプロジェクト25周年記念公演・展示事業企画書

「象とまつ毛」 企画書

1. 主催

取手アートプロジェクト実行委員会／特定非営利活動法人取手アートプロジェクトオフィス

2. 事業主旨

取手アートプロジェクト25周年企画として、事業開始から現在までにアートプロジェクトを通じて取手でおこったことに関与者の語りを通じて出会い、それらをもとに公演作品を制作、発表する。1999年の発足から25年、郊外を生活の場、あるいは活動の場と定めたそれぞれの個人が求めることを重ね変化してきたアートプロジェクトを、この数年間辿ってきた偶然の出会いから切り取るクロニクル演劇。ここからいったい何が見えるのか、私たちは何を見ていないのか。アートプロジェクトを通じて現在に接する私たちが、社会の未来を考える素地とする。

3. 企画内容

TAPでは2015年以降、パートナーアーティスト・羊屋白玉と共に「未来は過去のなかにある」をテーマにこれまでのTAPにさまざまな深度に関わった人びとに出会い直し、話をきくプロジェクト「取手アートプロジェクト・クロニクル」を実施し、TAPの25年間に関わった場所や人、年表をまとめてきた。関与者への聞き取り（ヒアリング）を継続し、これらの運動を通じて集まった小さな個人の物語をもとに2025年3月に舞台作品として公演する。

●概要

公演タイトル： 取手アートプロジェクト25周年記念公演 「象とまつ毛」

日程：2025年3月20日（木・祝）・21日（金）・22日（土）・23日（日）

会場：たいけん美じゅつ場 VIVA （取手市中央町2-5・アトレ取手4F）

○公演：VIVA パーク ○アーカイブ展示・トーク：とりでアートギャラリー



【公演日時】 受付開始：開演の 60 分前 開場：開演の 30 分前

	3月20日 (木・祝)	3月21日(金)	3月22日(土)	3月23日(日)
昼公演	12:30～ ・象とまつ毛 上演終了後 ・トーク「いっぽう、その頃取手では」(仮題)	昼 13:30 ・象とまつ毛 上演終了後 ・トーク「いっぽう、その頃取手では」(仮題)	12:30～ ・象とまつ毛 上演終了後 ・トーク「いっぽう、その頃取手では」(仮題)	昼 14:00 ・象とまつ毛
夜公演	夜 17:30 ・象とまつ毛	夜 18:30 ・象とまつ毛	夜 17:30 ・象とまつ毛	—
関連企画				11:00～ 関連企画② ・TAP25周年記念トーク「だれのまっげ？」(仮題)
	3/16(日)～23(日) ・関連企画① TAP25 アーカイブ展@とりでアートギャラリー			

全7公演・上演時間 約90分(予定)

☆：トーク「いっぽう、その頃取手では」(仮題) (30分程度)

●運営体制

・クリエーションと出演者 (50音順)

秋田貴雄(取手市役所職員)、阿部健一(ドラマトルク：舞台芸術において創作現場に関わり助言、調整、相談役などの役割を果たす人・演劇ユニット uni 代表・演出家)、遠藤由子(TAP事務局・イラストレーター)、大内伸輔(アートマネージャー・TAP運営スタッフ)、小林えつ(TAP運営スタッフ)、齋藤優衣(アカンパニスト：創作の可能性を広げる伴奏者・演劇ユニット uni メンバー)、富塚絵美(アートディレクター・芸大教員・藝大先端卒・芸術環境創造専攻修了)、長津結一郎(リサーチャー・大学教員・TAP塾卒業生・藝大音楽環境創造科卒・芸術環境創造専攻修了)、伸恵(小学生)、羽原康恵(アートマネージャー・TAP包括ディレクター)、羊屋白玉(演出家・劇作家・俳優・指輪ホテル主宰・TAPパートナーアーティスト)、リンノスケ(俳優・舞踏家)

美術 サカタアキコ

音響 庄子渉

テクニカル 高木諒一

舞台監督 岩澤哲野

写真撮影 中川陽介

広報 奥村圭二郎

制作統括 羽原康恵

制作 倉持美冴、五十殿彩子、榊原遥、田中天眞音

・日替わりゲストトーク「いっぽう、その頃取手では」(仮題)

出演者：取手の坂道愛好会、UNSAM、平井亨季(現在調整中 確定次第 WEB にて発表)

・象とまつ毛にエピソードキャストとしての出演者

日比野克彦、熊倉純子、岩間賢、伊藤達矢、島田忠幸、工藤悦子ほか

(現在調整中 確定次第 WEB にて発表)

・キービジュアル・フライヤーデザイン：小磯竜也

【チケット Ticket】 [全席自由]

一般 前売 3,000 円 当日 3,300 円

取手割(在住・在学・在勤) 2,000 円

U25 あるいは大学生 1,500 円 ※含む大学院生

U18 500 円

中学生以下無料

【チケット販売開始日】

2024 年 12 月 24 日(金) 14:00 より

直接購入：たいけん美じゅつ場 VIVA 11:00-18:00

(休：水・第一日曜・2024 年 12 月 29 日～2025 年 1 月 2 日)

オンライン予約：<https://torioki.confetti-web.com/form/3654>

公演中止の場合を除き原則としてチケットの変更・払い戻しは致しません。

●関連企画情報 ＊内容調整中

【TAP25周年関連企画】（いずれもたいけん美じゅつ場内）

①TAP25 アーカイブすごろく展 入場無料・出入自由

会場：とりでアートギャラリー3

会期：2025年3月16日(日)ー3月23日(日) 10:00-19:00

誰も全容を見ていないTAPの25年。芸術祭期、NPO設立からの通年活動期、アーツセンター期、めざせインフラ期。ここまでたくさんのターニングポイントがありました。あなたに見えていた風景やできごとを、この未完の年表にどんどん貼ってください。

②TAP25周年記念トーク「だれのまつげ？」(仮題) (出演者：現在調整中 確定次第WEBにて発表)

会場：とりでアートギャラリー1

日時：2025年3月23日(日) 11:00-12:30 定員 80名・予約制

トーカー：日比野克彦 (アーティスト・東京藝術大学学長)

熊倉純子 (TAP実施本部長・東京藝術大学教授)

倉持美冴 (TAP事務局長)

五十殿彩子 (TAP事務局長代理・たいけん美じゅつ場ディレクター) ほか

モデレーター：森司 (TAP実施副本部長・東京アートポイント計画ディレクター)

取手アートプロジェクトの25年は地域でのアートマネジメントの担い手の移り変わり、アートと社会の関わりの変遷を映しています。市民、アーティスト、NPO、行政、大学、企業、多様な主体と社会につながるアートの今後は今の取手で語るなら。

*公演に至る一年間、クリエイションメンバーがこれまでのTAPに関わる人びと・土地・ものごとに
出会った記録をつづった記録集 note : <https://note.com/tap25chronicle/>

取手アートプロジェクト (TAP)

取手アートプロジェクト (TAP=Toride Art Project) は、1999年より市民と取手市、東京芸術大学の三者が共同でおこなっているアートプロジェクトです。芸術による文化都市を目指す取手のまちをフィールドとして、アーティストの活動支援と、市民の芸術体験・創造活動の仕組みづくりにより、芸術表現を通じた新しい価値観の創造を目指して活動しています。

●主催者・助成などについて

- ・取手アートプロジェクト実行委員会

構成：取手市、東京藝術大学、アート取手、取手市教育委員会、取手市商工会、公益財団法人取手市文化事業団、一般社団法人茨城南青年会議所、取手美術作家展、特定非営利活動法人 取手アートプロジェクトオフィス)

- ・特定非営利活動法人 取手アートプロジェクトオフィス

目的：芸術活動とその体験を広く市民に提供し、芸術文化によるまちづくりをおこなう。

- ・助成

文化庁 令和6年度 文化芸術創造拠点形成事業／自治総合センター 令和6年度 地域の芸術環境づくり助成事業／野村財団

- ・協力：アトレ取手／UR 都市機構／藝大アーツプロジェクト実習取手コース

4. 問い合わせ先

取手アートプロジェクト実施本部（事務局 特定非営利活動法人 取手アートプロジェクトオフィス）

〒302-0001 茨城県取手市小文間 5000 東京藝術大学取手校地福利施設 藝大食堂 2F

TEL： 0297-84-1874（火・金 13:00-17:00）

FAX： 0297-84-1875

MAIL: tap-info@toride-ap. gr. jp

WEB: <https://toride-ap. gr. jp/>

パートナーアーティスト

羊屋白玉（ひつじや・しろたま）

指輪ホテル 芸術監督／劇作家／演出家／俳優



1967年北海道生まれ。「指輪ホテル」主宰、演出家、劇作家、俳優。ソーシャルワーカー。その土地土地で出会う人びとや個人が地域独自の歴史、暮らす環境などを作品に読み込み、その場所でしか実現できない作品づくりを行う。

言葉・音・身体・空間・五感・哲学を、斬新なビジュアルで貫く作品は、北米、南米、ヨーロッパツアーに及ぶ。国内外の現代美術の芸術祭では、海や列車など、その土地の風景の中で作品を発表している。

2013・16年『瀬戸内国際芸術祭』2014年『中房総国際芸術祭』2017年

『札幌国際芸術祭』など。

アジアの女性舞台芸術家たちとのコレクティブを目指す亜女会（アジア女性舞台芸術会議）樹立メンバー。アジアの女性達にインタビューをし、社会学や民俗学に基づいた、生活史のアーカイヴ作りをしながら、歴史における発展と保存の対立の中、どのようにバランスのとれた未来をつくってゆけるか。を、ミッションとしている。

北海道のアーティストの創作環境改善のための実践的勉強会。北海道アーティストユニオンスタディーズ（HAUS）樹立メンバー。ニューズウィーク日本誌で「世界が認めた日本人女性100人」に選ばれている。

TAPとのつながりは、2005年に取手駅前にあった旧茨城県学生寮の庭での公演「Please Send Junk Food」にはじまり、2015年よりTAP塾「めざせ！コミュニティ+アート・センター」、および取手アートプロジェクト・クロニクルパートナーアーティストとして取手でのリサーチを続けている。

阿部健一（あべ・けんいち）

uni 代表・演出／ドラマトゥルク／地域計画研究者



1991年、東京都出身。千葉大学大学院園芸学研究科・博士後期課程単位取得退学。

2010年にuniを立ち上げ、2013年頃からまちを舞台に、取材やフィールドワークを軸とした演劇創作を展開。環境と身体、時間と存在の間に立ち現れるものをテーマに、演劇とまちを横断して活動している。近年は『移動祝祭商店街』『くらしチャレンジ』（東京芸術祭）、や『地域の物語2021』『極楽フェス』

（世田谷パブリックシアター）など、まちと関わるプログラムに構成やリサーチで携わる。

大学院で地域計画学を専攻したことから、住民参加のまちづくりや公共空間のプランニングにも関わる。

2023年より取手アートプロジェクト・クロニクルに合流。地域や地勢のリサーチやTAP関係者へのヒアリングを推進中。

<https://www.uni-theatre.com/company-profile/kenichi-abe/>

齋藤優衣（さいとう・ゆい）

uni デザイナー／俳優／保育者



1990 年生まれ、東京都江戸川区出身。日本大学芸術学部演劇学科卒業。阿部健一が代表・運営を行う、uni に在籍。企画運営、広報デザインをはじめ、uni の創作を取り巻くさまざまなものごとのデザインを担う。デザインの他にも、小さな暮らしの営みを楽しむプロジェクトなどを企画・製作する。近年は指輪ホテル・金井ケイスケ氏の演出助手のほか、SLOW LABEL が実施する、ソーシャルサーカスプロジェクトにも携わり、地域のルーツや性別、障害の有無を問わず、多様な個性を持ったパフォーマーの伴走者として活動する。2022 年の『くらしチャレンジ（大人とこどものための戯曲集）』では戯曲集をはじめ各種グラフィックデザインを担当。

2023 年より取手アートプロジェクト・クロニクルに合流。2024 年度の公演を見据えたプロジェクトの研究やマネジメントを展開中。

<https://www.uni-theatre.com/>